

モニターレポート(12月報告)

【報告内容①】

朝の7時からじっくりと阿賀野川緑地公園や川岸を観察しました。この辺りの阿賀野川は、満願寺や沢海付近の阿賀野川よりも雄大な感じを受けました。海へ近いためか、とも考えています。

JRの陸橋を列車が走るのを川岸から眺めていました。阿賀野川、陸橋、列車、素晴らしいコントラストです。川を間近からじっくりと観察できるスペースがないのが残念です。川を全面に出した、川観測の公園が増えるのが希望です。

〈事務所からのコメント〉

大阿賀橋から下流の阿賀野川は、河口まで河川勾配も緩く、ほぼまっすぐにゆったりと流れるようになり、山々も見え、雄大な風景をかもし出しています。

阿賀野川緑地公園は、上流から、阿賀のかけはし、白新線橋梁、泰平橋と三つの橋が連続しています。特に泰平橋は、三角形をつないだ形であるトラスの形が目を引きます。また、今年度、全面的に塗装を塗り替えましたので、鮮やかな色になっています。

【報告内容②】

津川の友人宅に行くため、右岸の堤防を京ヶ瀬から津川まで走行しました。道中、新聞に報じられていたワンドの整備工事が見られました。

真冬の路面凍結時の堤防では、日々スリップして堤防から落ちる車が数台あるらしいと聞きました。所管の安全対策よりもドライバーの堤防での安全走行への自覚と技能が必要と思います。

〈事務所からのコメント〉

ワンドの整備に関心を持って頂き、ありがとうございます。このワンドの整備にあたりましては、住民の皆様が参加した懇談会を開いて、ご意見を頂きながら進めております。今後の進捗状況を引き続き見て、ご意見など頂ければと思います。

冬になると、凍結や積雪により堤防から落ちる車を毎年何台か見かけます。堤防という性格上、洪水等の場合に、水防活動として、川側に土のうを積み上げたり、堤防を守るための作業を堤防上から行いますので、ガードレールなどの安全施設が設置できないということをご理解いただいた上で、通行には万全を期して頂ければと思っております。

※複数のモニター報告を要約してあります。

【報告内容③】

スキーヤー待望の季節になりました。雪崩などの災害もありますが、春には雪がとけて、川へ流れてきます。ダムと堤防の強化で、水害を防ぎたいものです。そして「ライン下り」や「温泉客誘致」など明るい話題にしたいですね。

〈事務所からのコメント〉

平成23年7月の新潟福島豪雨により災害を受けた地域の堤防を強化する工事は、平成26年度末の完成に向けて、新潟県と阿賀野川河川事務所で開催しています。

堤防の強化により、阿賀野川周辺での洪水に対する備えが出来、地域の復興に役立ってもらえれば、観光の発展につながり、多くの観光客に訪れてもらえるものと思います。

【報告内容④】

五泉市で実施された淡水魚の生息個体数調査についてご報告いたします。

五泉市で、絶滅危惧種の希少淡水魚「イバラトミヨ」(トビウオ科)の保護活動を行うNPO法人「五泉トゲソの会」は、同市土堀地区で生息個体数調査を実施した。イバラトミヨは五泉市が南限とされている。同会は、2001年に調査を開始した。2008年には1500以上確認されたが、数年は減少傾向とのこと。巣作りに必須な水草「ミクリ」を水路に移植し、生態系の再生に取り組んでいる。同会では、今後、繁殖期前にトゲソの放流や「ミクリ」の移植を継続し、生息環境の復元に努めると話していた。

〈事務所からのコメント〉

阿賀野川河川事務所では、昔の川の状況を復活させようとする自然再生工事を沢海床固め下流右岸において実施しています。

内容は、旧小阿賀野川の河川跡を焼山地区ワンドとして再生するものです。これが完成すると、「ミクリ」(準絶滅危惧種)などの抽水植物(根が水中にあり、茎や葉を伸ばし水面に出る植物)の生育環境が確保され、イバラトミヨなど小魚の隠れ場となり、戻ってきてくれるものと期待しております。

※複数のモニター報告を要約してあります。